

課題のアウトプット力育成のために導入 授業だけでは不足する指導を ICT 活用で補完

慶應義塾中等部

江波戸 慎 先生



4 技能をバランスよく育成するには 授業時間や指導内容の拡充が必要

本校では、社会で必要とされる英語力、つまり「読む・聞く・書く・話す」の4技能の総合的な育成に重点を置いています。カリキュラムも、1年生から4技能をバランスよく学習させるよう組んでいます。リーディングやリスニングを中心としたインプット型の授業のほか、スピーキングやライティングに焦点を置いたコミュニケーションの授業を日本人教師とネイティブ教師のチームティーチングで各学年週2回実施し、インタビューテストを年に2回程度、一人2~3分程度で、全員に実施し評価を与えています。

課題は、アウトプット力育成において、授業だけでは限界があることです。将来的にはプレゼンテーションやディベートができるような力を身に付けさせたいのですが、そのような指導をする前に、土台となるアウトプット力を個別に高める必要があります。

しかし、スピーキング力の育成を考えると、少人数対応やさらなる授業時間が必要となります。発音などのスキルトレーニングも教師が個別にチェックして指導できればいいのですが、全員を授業内で個別指導することは物理的に難しく、どうしても理想と現実のギャップが生まれます。そこで

本校では、リスニング力と統合したスピーキング力育成のため、授業の補完ができる学習ツールを探していました。

「FunGo」でいつでも・どこでも学習 教科書に沿った内容や発音指導も魅力

本校では、2018年度より中等部の1・2年生全員に「FunGo」プライマルコースを導入しました。理由のひとつは、生徒に各々のデバイスでアプリをダウンロードしてもらえれば、いつでも、どこでも学習ができることです。自宅での学習がメインなので、スマートフォンやタブレットなど、全員ができる環境が整うことが条件でした。

もうひとつは、プライマルコースは教科書に沿って学習できる点が多いため、生徒たちにとってはメリットがあるということです。また、アプリが発音やピッチなどを細かに評価してくれるところも大きなポイントです。生徒が自分の発話を客観的にスコアで評価できるので、ゲーム感覚で楽しく学習できる点も魅力的でした。

機械相手で心理的障壁も軽減 成績評価にも取り入れモチベーション UP

「FunGo」で学習している生徒たちは、楽しく、抵抗なく、何度も発話をしています。先生に対しては英語で発話することに抵抗を感じても、「FunGo」を使えば、ほとんど躊躇なく発話してくれます。

子どもの発達段階にもよりますが、中学生の段階では、ためらわず、恥ずかしがらずにどんどん英語の音声を発声させることが重要だと思います。今の子どもたちは、授業中にみんなの前で話して先生に評価をされると、評価を意識しすぎるため、モチベーションを下げってしまうような生徒もい

ます。しかし、機械が相手だと、生徒たちはたとえ評価が低くてもモチベーションを下げることがなく、ゲーム感覚でどんどんチャレンジしていきます。そして「なぜ評価が低いのか」を自分でなんとなく理解し、どのように発話すれば点数が高くなるかを各自で考えるようになっています。

本校では「FunGo」を成績評価にも一部取り入れています。目標は総合70点をクリアすること。あえて100点を取らなくてもよいとした理由は、発音で細かいところを気にしすぎてしまうと、逆に学習の阻害になり得るからです。ただし、高得点を取ることが本人のためにもなるので、夏休み等の課題として取り組んだ生徒には加点評価もするように配慮してもよいと考えています。

今後は、学習を一定以上継続させるために、期限を細分化し、ログを増やさせる等課題の設定を工夫するなど、モチベーションが維持できるような仕掛けをしながら、取り組みの度合いを高められるようにしていくつもりです。

ICT 活用で効率的・継続的な学習を実現 2020年度からの外部試験対策にも

授業のカリキュラムの都合上、スピーキング指導になかなか取り組めていない学校や、話すチャンスを生徒に十分に与えられていない学校では、「FunGo」は取り入れる価値が大いにあると思います。授業内で十分な指導ができなくても、ICTを活用することによって、効率的かつ継続的に学習させることができるのではないかと私は考えています。また、2020年度の大学入試における外部試験対策においても、よい練習になると思います。TOFELやGTECなど、コンピュータに向けて解答するスピーキングテストは、対面式のインタビューテストとは大きく異なり、特別なスキルが必要です。日頃から機械を使って発話をさせることに慣れさせておくという点で対策にもなると思います。

FunGo 導入のご相談・お問い合わせ :

株式会社 GLOBAL VISION 担当 : 木村 TEL : 03-6300-9078 e-mail : info@global-vision.education